

「生駒市農業委員会の活動」

(奈良県生駒市)



担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

1 地区の特徴・状況、課題

【特徴・状況】

- 都市型近郊農業で小規模兼業農家～兼業農家がほとんど
- 農作物の主なものとしては水稻、玉ねぎ、きゅうり、白菜、大根などの少量多品目



【課題】

遊休農地が多い

- 農地が小さく大規模化が困難 → 収益率が低い
 - イノシシ等の被害が多い → 耕作意欲の減退
- 遊休農地の増加へ、そして負のスパイラル



担い手の高齢化・後継者不足

- 兼業農家が多く、若年層から農業を引き継ぐ人が少ない。

遊休農地が増加する中、農業委員、推進委員が自発的にパトロールを行っている。また利用状況調査の精度を高め、意向調査で農地バンクの希望のあった農地は、農地サポートセンターに報告すると共に、生駒市独自の農地バンクにも登録し、新規就農者への斡旋を進めている。

2 課題解決に向けた活動 (農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

遊休農地が増加

◎農地復元

遊休農地解消活動

- ・遊休農地を農業委員自らが農地に再生 (平成24年度から3ヶ所で実施)
- ・再生した農地で収穫体験イベントや農業祭用の葉牡丹栽培を実施し、終了後、農地を貸し出し

(現状も農地として活用)



- ◎鳥獣等対策として、農作物被害で狩猟免許を取得される方などに取得費用の1/2を補助 (農林課)

◎農地調査

遊休農地調査の安全性確保

- ・ドローン等機器を活用し、これまで見つけることのできなかった遊休農地を安全に調査(今後予定)



非農地判定の推進

- ・山林化農地の顕著な区域については、段階的に非農地判定を推進 (令和元年度約2.7ha 現在も実施中)



◎農業を知ってもらおう、農業者の確保、集積集約など

集落座談会(人・農地プラン含む)

- ・遊休農地の分布状況を共有し、新しい農業者へのあっせんにつなげる。(令和元年度は約15回開催)



親子芋ほり体験(農業祭にて開催)

- ・小学生以下を対象としたイモ掘り体験を行う
- ・小さい頃から土にふれ、農業に興味関心を持ってもらう



農業人フェア、マッチングに参加し新規就農者勧誘

- 一方、新規就農者のスキル評価を強化し、農地転売を防止する仕組み作りについて工夫している



3 活動(取組と工夫)の結果

過去4年において、**新規参入者13者であり、農地の活用は3.4ha**である。

農業委員会で解消した遊休農地は、市が非農家の方に貸し出しする特定農地事業で活用している。

新規参入の状況	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	管内農地 (H29.3.31現在・農家台帳より)	これまでの集積	集積率
	4経営体	1経営体	3経営体	5経営体			
新規参入者農地取得	1.1ha	0.4ha	0.7ha	1.2ha	623ha	4.4ha	0.7%

※令和2年度遊休農地解消実績は0%でした。

4 今後

農地バンクを充実。新規就農者への農地あっせんを積極的に推進。安全に現地調査。

農地面積	市街化区域	調整区域	計	(農家台帳より)
	約111ha	約512ha	約623ha	
農家戸数	自給的農家	販売農家	計	(農林業センサスによる)
	491戸	274戸	765戸	
販売農家	専業農家	兼業農家	計	
	79戸	195戸	274戸	

